

日衛連NEWS

Japan
Hygiene Products
Industry Association

発行 / 日本衛生材料工業連合会

特集 生理用ナプキンについて知っておきたいさまざまな事柄

国内初の製品が1961年に登場して以来、生理処理用品の代名詞として多くの女性に利用されてきた生理用ナプキン。その市場は年間500億円を越えるものになっています。製造販売メーカーにおいても、機能性や快適性、さらには簡便性のさらなる追求のため研究が日夜続けられています。今回は、そんな生理用ナプキンの特集です。自分にあった生理用ナプキン選びの一助となるようさまざまな観点から紹介していきます。



目次

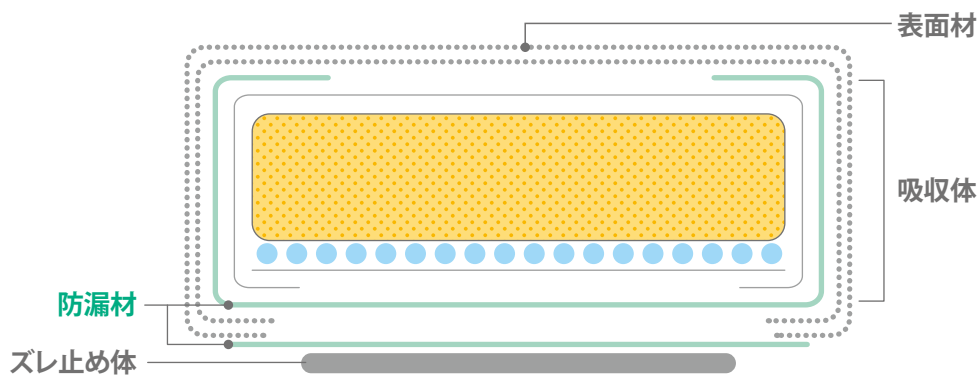
- **生理用ナプキンの一般的な構造**
■表面材 ■吸収体 ■防漏材 ■ズレ止め材
- **生理用ナプキンの形状・サイズ・厚みによる分類**
■形状による分類 ■サイズによる分類 ■厚みによる分類
- **生理用ナプキンの使用実態と取替え時期**
- **生理用ナプキンの正しい捨て方**
- **生理用ナプキンの焼却処理による環境安全性**
【コラム】生理処理用品の歴史と生理用ナプキン
- **生理用ナプキンについての相談窓口**
生理処理用品部会【ナプキン分科会】加盟企業一覧

生理用ナプキンの一般的な構造

各メーカーからさまざまなタイプの生理用ナプキンが発売されていますが、その構造は「表面材」「吸収体」「防漏材」「ズレ止め材」で構成されるのが一般的です。その中で使用感に大きく関わるのが肌に直接触れる表面材。ふんわりとしたやさしい肌触りや蒸れを感じにくいサラっとした着け心地、さらには吸収力にも大きく影

響する構成素材といえるでしょう。

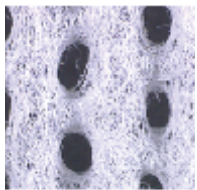
なお、現在市販されている生理用ナプキン表面材は、「不織布」と「開孔フィルム」の2種類に大別されます。それぞれの特徴については下記で説明しているので、ぜひ生理用ナプキンの参考にしてください。



■表面材

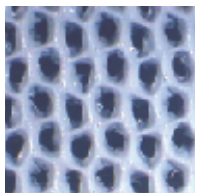
肌に直接接する部分。肌触りと同時に、経血をしっかりと通過させること、そして吸収した経血が逆戻りしないことが求められます。また近年ではさらなるフィット感や肌触りを追求するため、立体感を出すなどの工夫もされています。素材は大きく不織布と開孔フィルムに分類されます。

<不織布>



10～20 μ m(ミクロン)の極細繊維を絡み合わせた不織布を使用した表面材。表面材全体で経血を吸収します。やわらかく肌触りのよさが特徴となっています。

<開孔フィルム>



ポリエチレンフィルムに開孔処理を施した表面材。一般的に「ドライメッシュ」や「メッシュ」と呼ばれています。開孔部分からのみ通液し、ほかの部分では液しみさせない構造になっているため、経血吸収後のドライ感が特徴となっています。

■吸収体

吸収した経血を貯めておくタンクの役割を果たすもの。綿状パルプと呼ばれる綿、吸収した経血をゼリー状に固める吸水ポリマー、型くずれを防ぐ吸収紙から成っています。

■防漏材

吸収した経血が下着にしみ出のを防ぐ役割を果たします。経血を通さないという役割を持つため、主にフィルム素材や撥水性の不織布が使われます。

■ズレ止め材

製品を装着する時のズレ防止に下着に固定するための接着面。よりしっかり固定させるために生理用ナプキンの両サイドにウイング(羽根)を付けたものもあります。

不織布の表面材には肌触りがよいという特徴があり、一方の開孔フィルムの表面材には装着時のドライ感という特徴があります。自身の肌質や経血量、ライフスタイルなどを考慮しながら自分にあったものを選んでください。



生理用ナプキンの形状・サイズ・厚みによる分類

生理用ナプキンには多くの種類があり、前項で紹介した表面材での分類のほか、形状や厚み、サイズなどでさまざまな種類にわかれており、現在は90種以上が市場に出回っているといわれています。経血量や運動

などで活発に動くといった使用する日の行動、さらにはアウターへの影響などを考慮しながら使い分けると便利でしょう。

■形状による分類



<スタンダードタイプ>

最も歴史が古く、また最も普及しているタイプです。シンプルで初めてでも使いやすいのが特徴です。ズレ止め材を下着のクロッチ部分に貼付けて使用します。



<立体ギャザータイプ>

サイドに横漏れをガードする立体ギャザーがついたタイプです。からだにフィットするので運動をするときなどに適しています。



<羽つきタイプ>

羽を巻き付けることで下着に固定できるタイプです。ズレやヨレに強いのでスポーツや旅行など活発に動く時に便利です。下着のクロッチ部分にあて、羽を折り返して装着します。



<ショーツタイプ>

2001年に登場した履くタイプの生理用ナプキンです。経血量の多い日の夜などに向いています。取り外しの際は両脇を破る構造になっているので足を汚す心配がありません。

■形状による分類



<普通サイズ>

使いやすい基本サイズで、20~24cmが一般的です。



<小さめサイズ>

経血量が少ない日に使われるタイプで、一般的に約17cmとなります。他のサイズより装着時の違和感が少ないのが特徴です。



<スタンダードタイプ>

一般的に、製品の厚みが4~7mm程度のもので、初めてでも使いやすい基本サイズです。



<スリムタイプ>

製品の厚みは約3mm前後。中には2mm以下という極薄タイプもあります。



<大きめサイズ>

普通サイズよりも大きいタイプです。夜用としては、約40cmのものもあります。経血量が多いときや漏れが心配なときに安心して使えます。

スタンダードタイプと比較してスリムタイプは吸収量が少ないと考えている方がいます。確かにひと昔前まではそうでしたが、現在では「表面材」「吸収体」の改良により、スリムタイプでもスタンダードタイプとかわらない吸収性能を有しています。

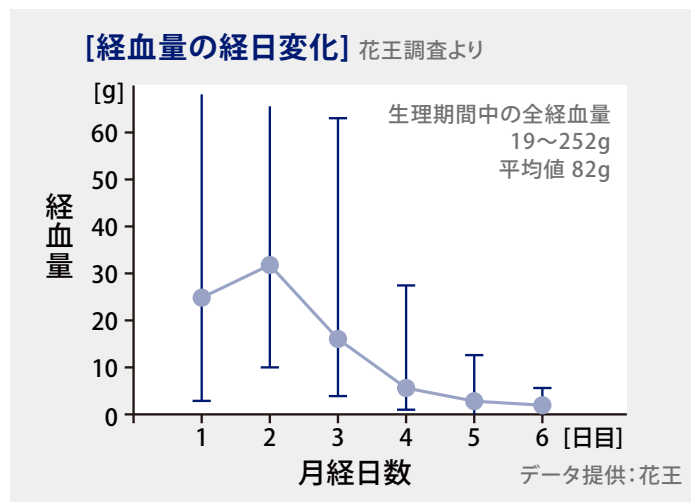


生理用ナプキンの使用実態と取替え時期

月経期の経血量については、女性による個人差もありますが、月経期間中の全経血量は19～252g、平均で82gとの結果が出ています。さらに経日変化をみると、月経開始から2日目が最も多く、総じて月経開始から3日目までが量の多い期間、4日目以降が量の少なくなる期間となっています。また、1回の生理期間中に使用する生理用ナプキンの枚数は20～25枚。生理用ナプキン1枚あたりの使用時間については、経血量が多い月経期前半はモレの不安や経血による不快感から交換頻度がこまめになる傾向にあります。一方、量の少ない月経期後半においては、生理用ナプキン1枚あたりの装着時間は長くなる傾向にあり、月経期前半に比べておよ

そ1.5倍の長時間使用となっています。(花王調査)なお、生理用ナプキンの取り替え時期についてはトイレに行く毎が漏れ対策の観点や衛生面の観点から推奨されています。

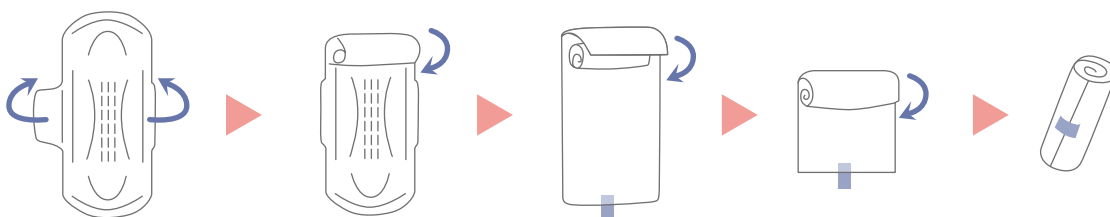
生理用ナプキンの使い分けについては、「経血量の多い日の夜だけ夜用タイプを使う」「経血量の多い日は昼用・夜用ともにたっぷり吸収タイプを使い、あとはスリムタイムを使う」など、経血量の経日変化に応じて数種類の生理用ナプキンを併用するのが一般的となっており、女性が自分に合った生理用ナプキンを選ぶ上で、大きなポイントとなっています。



生理用ナプキンの正しい捨て方

使用済み生理用ナプキンの処理方法としては、経血がついている面を内側にして丸め(羽つきの場合は羽を内側に折り畳んでから丸める)、交換する新しい生理用ナプキンの個別ラップに包んでから捨てるのが一般

的です。なお、トイレに生理用品専用のゴミ箱がない場合は、トイレトーパーなどくるんで持ち帰るようにしてください。



生理用ナプキンの焼却処理による環境安全性

使用済みの生理用ナプキンには経血が付着しているため、使用後は衛生上の観点からも焼却処理が望ましいとされています。

なお、生理用ナプキンの構成素材にはダイオキシンを発生するおそれのある成分は基本的に含まれていません。生理用ナプキンと同様の構成材料を用いている大人用紙おむつを使って日本衛生材料工業連合会が

独自に行った焼却実験(1998年4月実施)では、使用済み紙おむつの焼却によって排気中、または焼却残灰のダイオキシン量は、厚生労働省の廃棄物焼却炉の最も厳しいダイオキシン規制基準値を大幅に下回る結果となっています。したがって、使用済みナプキンを焼却処理しても、環境への影響はないものと考えられます。

生理処理用品の歴史と生理用ナプキン

<日本における生理処理用品の歴史>

生理処理用品の記述としては、平安時代の医師・丹波康頼(912～995)が撰述し、円融天皇に献上した日本最古の医学書「医心方」の中で、月帯(けがれぬの)という月経帯を紹介しています。江戸時代には再生和紙である浅草紙を肌にあて、馬と呼ばれる生理処理用のふんどし(馬の前垂れに似ていることから「馬」と呼ばれていた)を用いるのが一般的でした。

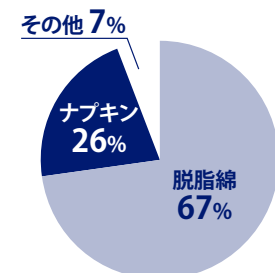
1886年(明治19年)には脱脂綿が日本薬局方に指定され、体液吸収に効果のある医薬品として普及。濃尾の大震災以来、その使用が一般にまで広がったことをきっかけに、それまでの浅草紙やボロ布に代わって脱脂綿が使われるようになります。大正時代に入ると脱脂綿をガーゼでくるんだ生理処理用品が登場。1930年(昭和5年)にはロール式脱脂綿をカットして使用する製品が発売され、生理処理はT字帯と脱脂綿を組み合わせて使うのが一般的となります。

<生理用ナプキンの登場と普及>

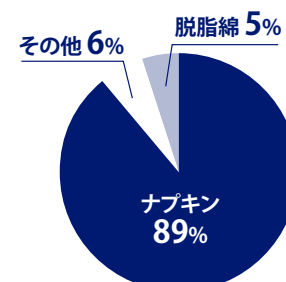
1961年(昭和36年)11月、アンネ株式会社から国内初の生理用ナプキンが発売されました。それまで、女性の月経は恥ずかしいもの、隠すものといった社会通念を打ち砕くかのような新聞広告の効果もあり、12枚100円という従来品の倍近い価格でありながら爆発的なヒットとなります。その人気は女性の生理日を「アンネの日」、生理を「アンネ」と呼ぶことが定着するほどでした。また、「ナプキン」という言葉が紙綿製生理処理用品の代名詞として定着したのもこのときです。1962年(昭和37年)に毎日広告社の「使用している生理処理用品の種類に関する調査」では、脱脂綿が最も多く全体の67%、紙製の生理処理用品はまだ26%でしたが、『アンネナプキン』の発売をはさんだ7年後、1969年(昭和44年)のマーケティングセンターの調査では、脱脂綿使用者5%に対しナプキン使用者が89%と逆転。『アンネナプキン』の人気のほどが伺えます。なお、従来の脱脂綿製生理処理用品が経血を吸収する「吸収材」だけで作られていたのに対し、ナプキンは吸収材の他に経血を漏らさない防漏材や肌に触れる表面材が使われていました。

使用している 生理処理用品の種類

【1962年(昭和37年)】



【1969年(昭和44年)】



生理用ナプキンについての相談窓口

生理処理用品部会【ナプキン分科会】加盟企業一覧

花王株式会社0120-165-695 <http://www.kao.co.jp>

第一衛材株式会社0875-52-3131 <http://www.daiichi-eizai.co.jp>

大王製紙株式会社0120-205-205 <http://www.elleair.jp>

大三株式会社0887-54-1112 <http://www.cotton.co.jp>

プロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン株式会社0120-02-1329 <http://jp.pg.com>

丸三産業株式会社0893-25-1486 <http://www.marusan-sangyo.co.jp>

ユニ・チャーム株式会社0120-192-862 <http://www.unicharm.co.jp>
